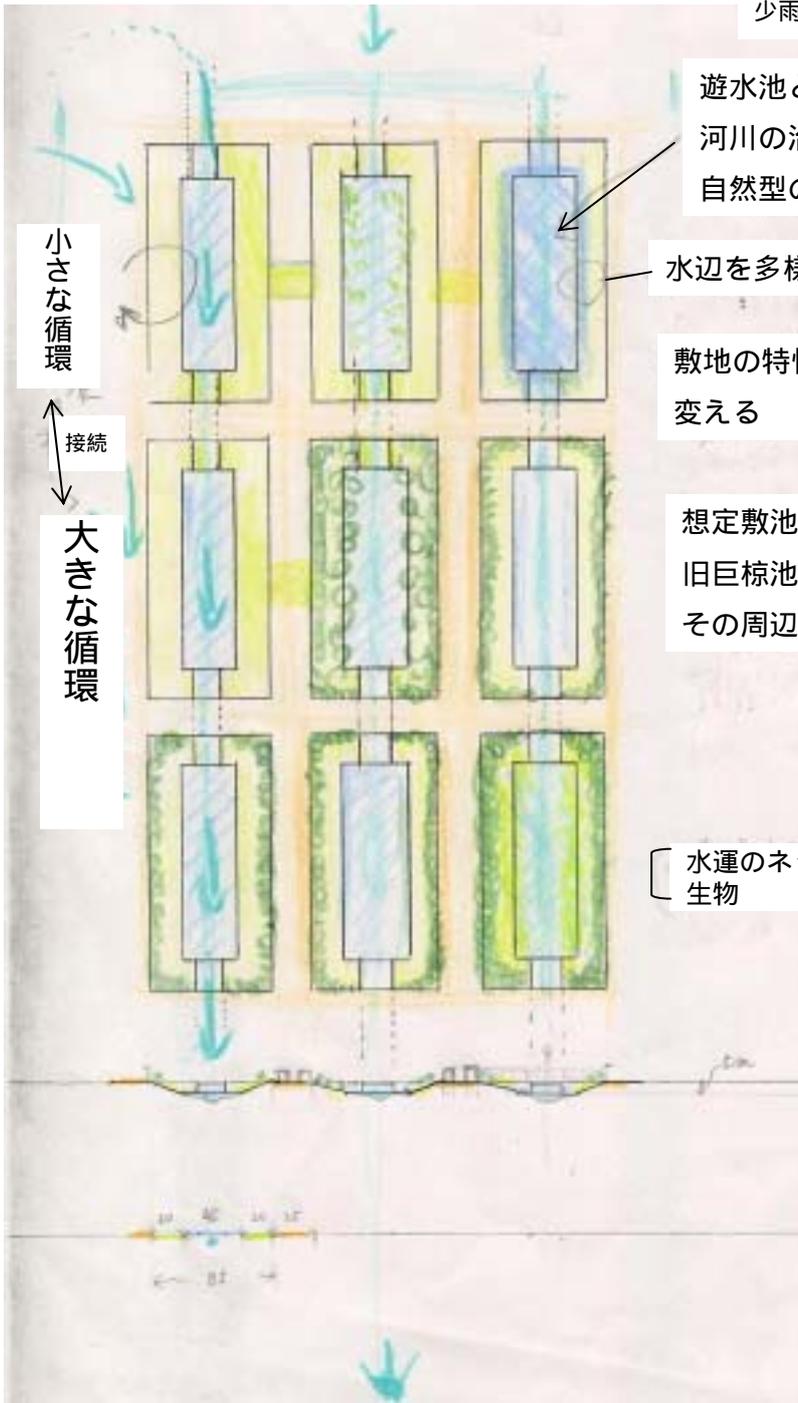


ダムにとってかわる治水の方法として有力なのは遊水池（地）の建設がある。
 寝屋川の深北緑地（旧深野池）などがある
 内水調整池としても機能している。
 人の住む場所と遊水地を合体させる。もともと氾濫原（池、沼）だったところが都市化されていることも多いので不自然なことではない。
 水位変動に対応し生物の多様性は育くむ。
 カンボジアのトンレサップ湖を考えてみると水位変動と生物のゆたかさには、関係があるように思える。

多雨 遊水池 - 排水

少雨 貯水池 - 内部じゅん環、浄水（付加機能）



遊水池として洪水調整機能をもたせる
河川の治水負荷を軽減し
自然型の河川づくりをたすける。

水辺を多様な生物を育む場として利用する。

敷地の特性によって組織化する方法は
変える

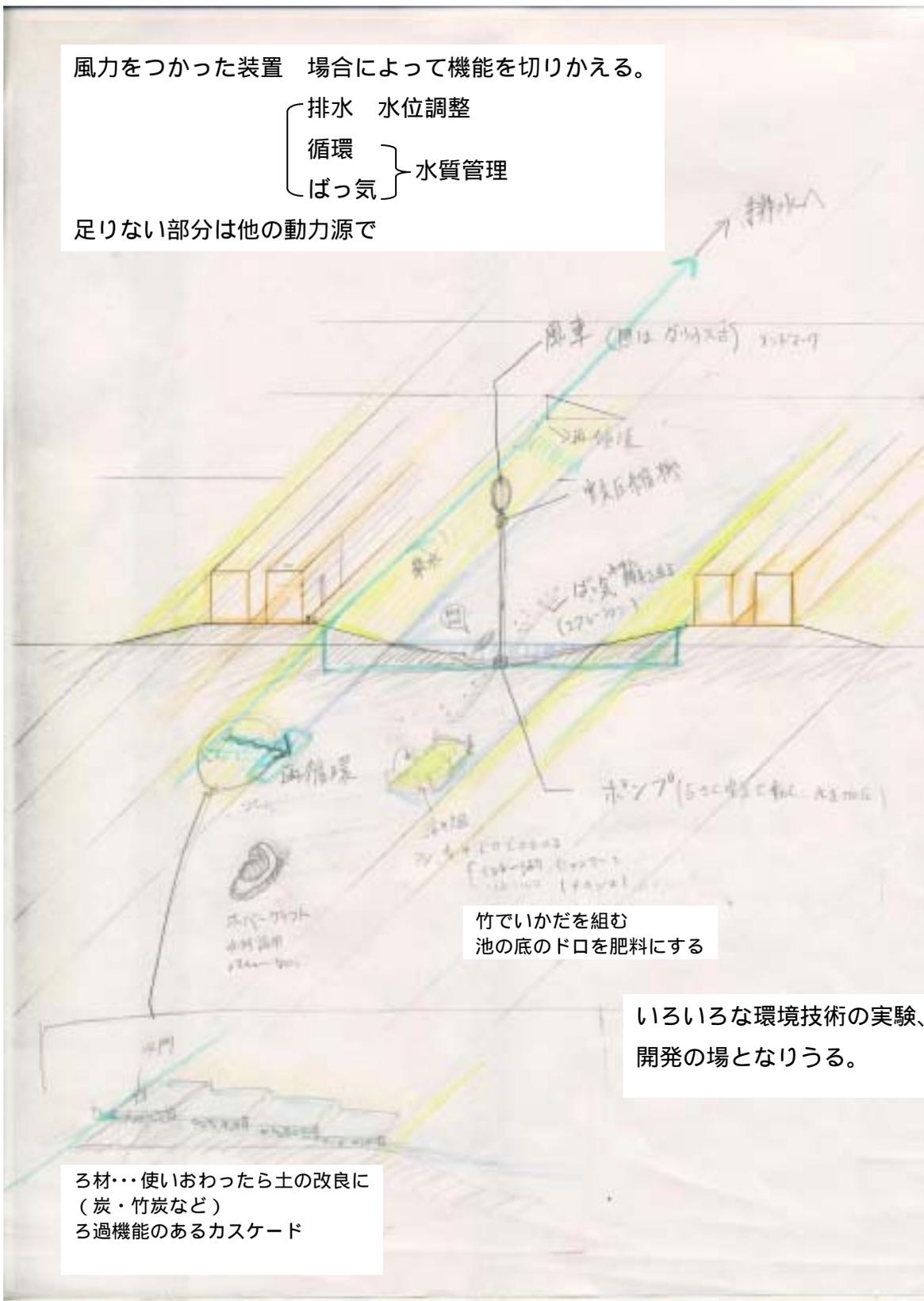
想定敷池は
旧巨椋池、深野池、新開池
その周辺 河内湖

水運のネットワークができれば、いろんな可能性が生まれる
生物

風力をつかった装置 場合によって機能を切りかえる。

排水 水位調整
循環 } 水質管理
ばっ気 }

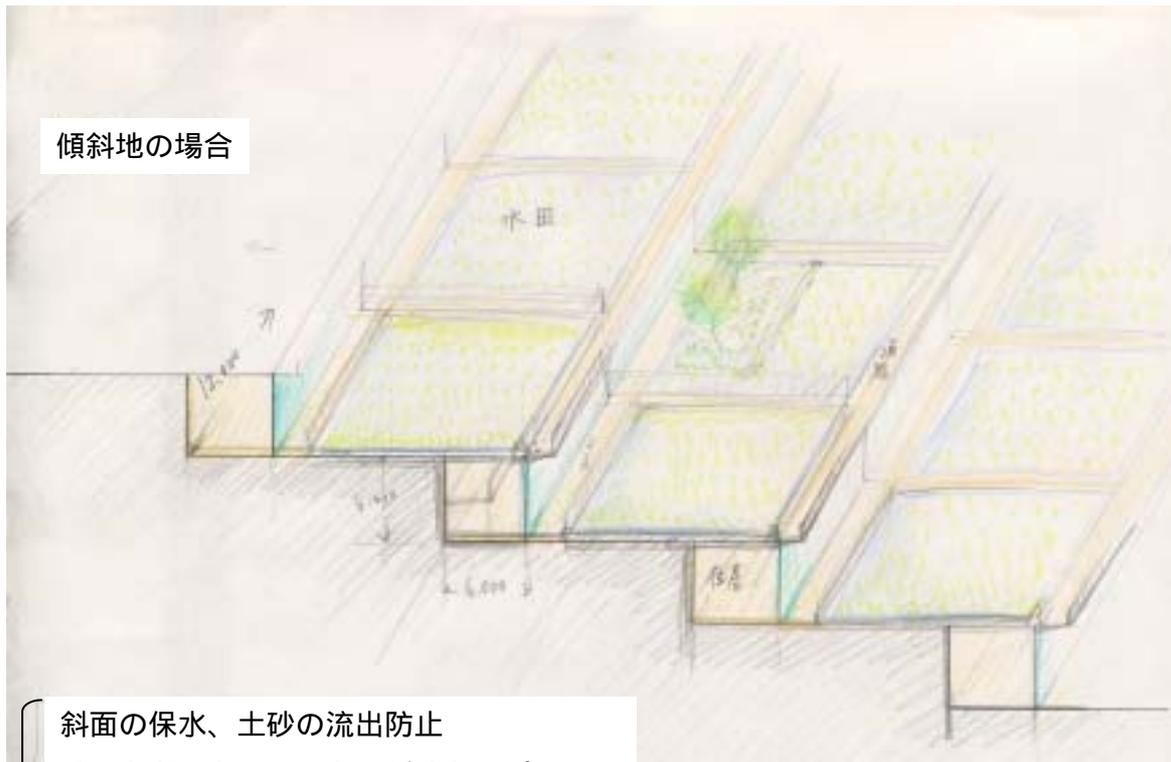
足りない部分は他の動力源で



竹でいかだを組む
池の底のドロを肥料にする

いろいろな環境技術の実験、学習、
開発の場となりうる。

る材・・・使いおったら土の改良に
(炭・竹炭など)
る過機能のあるカスケード



傾斜地の場合

斜面の保水、土砂の流出防止
手のとどくところにあるビオトープの創出
身近な物質循環

以上基本的なアイデアスケッチです
現実化するにはさらに発展させた案の作成が必要ですが
そのためにもたくさんの方の意見がいただければと思っています。